

さいたま市防災カルテ

川通中学校区

①学区の概況と課題

◆学区の概要

【位置】岩槻区の東部に位置している。
 【土地利用】学区の北西部には団地があり、中央部から南部にかけては住宅と田畑が混在した地域が広がっている。西部には元荒川が流れる。
 【交通】学区の西部には国道16号が走っている。

◆学区の位置



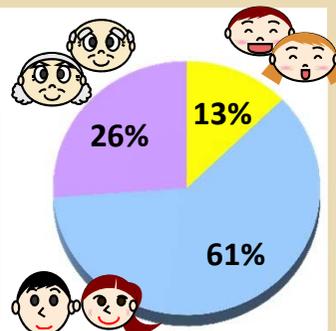
◆学区内被害想定結果

地震	さいたま市直下地震	関東平野北西縁断層帯地震	東京湾北部地震			
最大震度	6強 (6.0)	6強 (6.1)	6弱 (5.7)			
最小震度	6弱 (5.5)	5強 (5.4)	5強 (5.0)			
死者	6人 (0.1%)	5人 (0.0%)	0人 (0.0%)			
負傷者	89人 (0.7%)	78人 (0.7%)	17人 (0.1%)			
避難者	1,270人 (10.7%)	1,283人 (10.8%)	139人 (1.2%)			
全壊建物棟数	127棟 (2.5%)	123棟 (2.4%)	11棟 (0.2%)			
うち焼失棟数	3棟 (0.1%)	11棟 (0.2%)	0棟 (0.0%)			
半壊建物棟数	764棟 (15.2%)	623棟 (12.4%)	299棟 (5.9%)			
水害	荒川	利根川	江戸川	芝川等	綾瀬川等	鴨川等
床上浸水建物棟数	1,827棟	1,372棟	0棟	0棟	16棟	0棟
床下浸水建物棟数	1,389棟	3,612棟	76棟	0棟	143棟	0棟

※震度のカッコ内は計測震度を、それ以外のカッコ内は学区内の比率を示す。

◆人口概況 (平成22年国勢調査)

	川通中学校区	全市平均
総人口	11,909人	
0-14歳	1,511人 (13%)	(14%)
15-64歳	7,282人 (61%)	(67%)
65歳以上	3,116人 (26%)	(19%)
人口密度	1,591人/km ²	5,766人/km ²



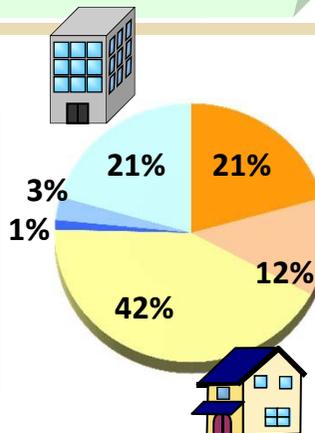
【地震】関東平野北西縁断層帯地震の震度が最も大きくなっているが、他の地域と比べ、相対的にはどの地震の場合でも被害率は低い。

【水害】利根川氾濫では地区のほぼ全ての建物が、荒川氾濫の場合は地区の60%以上が浸水被害を受ける。

● 全市平均と比較すると、**65歳以上の高齢者層が多い。**

◆建物概況 (平成23年度さいたま市都市計画基礎調査)

	川通中学校区	全市平均
総建物棟数	5,041棟	
木造(昭和46年以前)	1,041棟 (21%)	(17%)
木造(昭和47-55年)	618棟 (12%)	(12%)
木造(昭和56年以後)	2,141棟 (42%)	(45%)
非木造(昭和46年以前)	60棟 (1%)	(1%)
非木造(昭和47-55年)	146棟 (3%)	(3%)
非木造(昭和56年以後)	1,035棟 (21%)	(21%)



◆防災関連施設情報 (平成26年2月時点)

種別	名称
避難場所	川通中学校、川通小学校、上里小学校、ふれあいプラザいわつき
一時・広域避難場所	
市・区役所等窓口	東岩槻支所
消防署・出張所	
警察署・交番	東岩槻駅前交番
救急病院	岩槻中央病院
応急給水場所	川通中学校

◆被害想定結果からわかる防災上の主なポイント

【水害】水害の危険性が高い地区となっており、迅速な情報伝達体制や、自主防災組織等による**安全な避難体制の構築が必要。**

【避難】高齢者層が多く、地域で協力した**避難行動・救助活動が必要。**

● 建物の割合は全市平均とほぼ同等である。

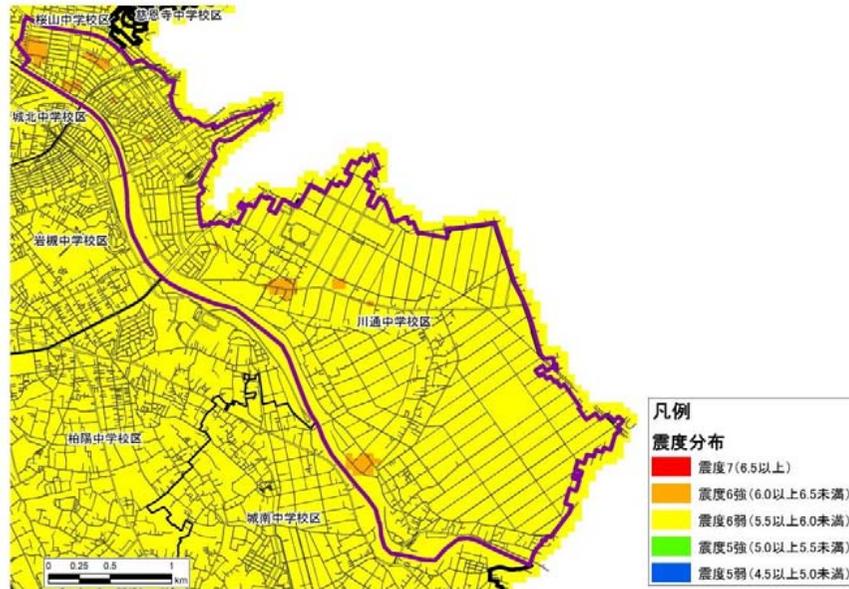
本カルテは一つの例であり、これを基に防災上のポイントや必要な対策について、家族や地域の方々と話合ってみましょう。



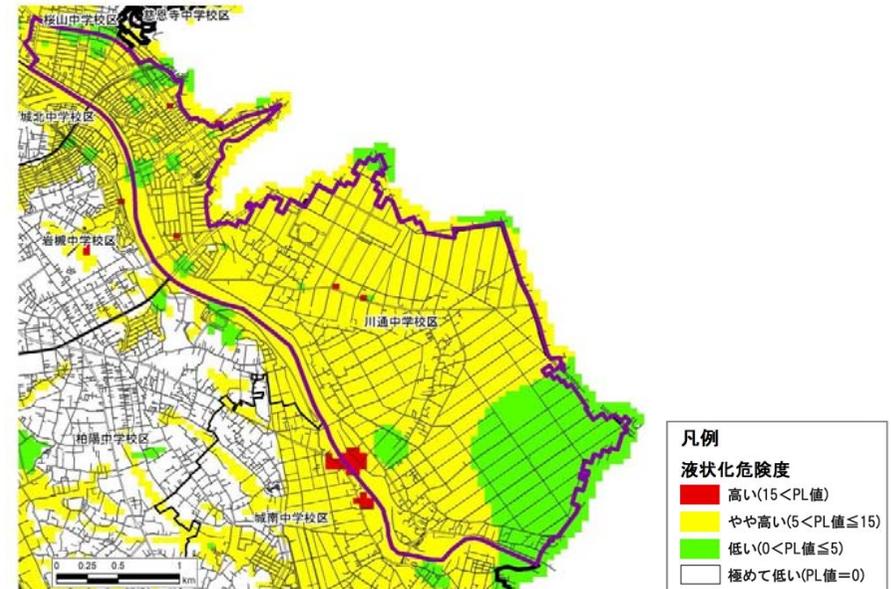
②さいたま市直下地震の想定 **さいたま市防災カルテ**

川通中学校区

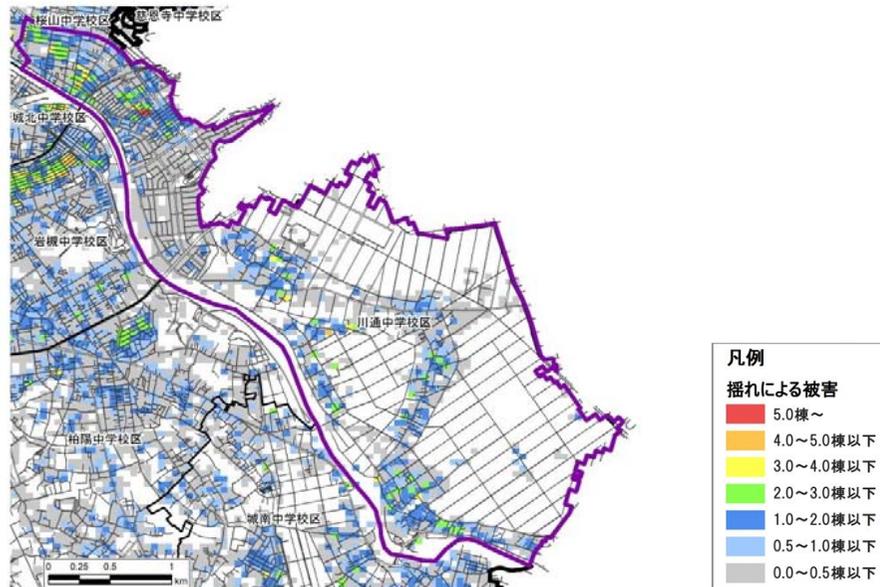
震度分布図



液状化危険度分布図



建物被害分布図（揺れによる被害）



建物被害分布図（火災延焼による被害）

